

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	イ	21
問二	ア	22

問三	
B	A
仕事	鍛冶屋
を	を
近	さ
く	ん
で	に
見	な
さ	り
せ	た
て	い

(14字)

問四	エ	24
問五	イ	25
問六	エ	26
問七	鋼	27
問八	感	28
問九	心	28
問十	ウ	29

問十	
業	鍛
と	冶
す	屋
る	は
六	立
郎	派
を	な
尊	仕
敬	事
し	で
て	、
い	そ
る	れ
。	を
	職

30
31
32
33

問十一	エ	34
-----	---	----

2

問一	自然	35
問二	に	35
問三	でき	36
問四	る	37
問五	エ	38
問六	ウ	37
問七	イ	38
問八	文	39
問九	脈	39

	5	4	3			
⑥	①	①	①	問十一	問十	問六
画 像	医 師	ウ	エ	ア	「	工
61	56	51	46	イ	素	40
⑦	②	②	②	ウ	直	問七
再 起	移 転	ア	イ	エ	さ	素
62	57	52	47	オ	」	直
⑧	③	③	③	(完 答)	を	に
加	演 歌	ウ	イ	45	育	吸
63	58	53	48	を	て	収
⑨	④	④	④	育	る	す
省	銀 河	ア	ウ	て	る	る
64	59	54	49	る	44	41
⑩	⑤	⑤	⑤	問八	ア	42
厚	団 結	イ	ア	問九	ウ	43
65	60	55	50			

(配点)
 { ① (問十) 8点、他各5点 }
 { ② (問二) 2点、他各5点 } 計150点
 { ③ ④ ⑤ 各2点 }

【解説】

1 伊集院静「親方と神様」

『少年譜』所収（文藝春秋）から出題しました。老いを迎えた孤独な鍛冶屋の六郎と鍛冶屋の仕事をほれこんだ、どこか影のある少年の交流を描いた物語です。徐々に二人が心を開いていく様子を丁寧に読みとりましょう。

問一 B1 理由 比較

——線①の「いまいまい言葉」とは直前の「歳を取ったということか……」を指しています。「若い時はこんな感覚はなかった」「やわな身体ではなかったはず」という言葉からわかるように、自分の老いをひしひしと感じ、いら立っているのでしょう。体を酷使する、鍛冶屋の仕事一本でやってきた六郎にとって、自分の老いを感じるのはつらいことでしょう。ですから、答えはイです。ア老いについて触れられていません。ウ「やる気がでないことを…情けなく」、エ「不吉なことがおこるような気がした」の部分が不適切です。

問二 B1 具体化 比較

——線④の直後に「昨日も、今日も一日仕事を見ていました」とあるように、少年はずっと六郎の仕事をのぞき見していました。いかにも気難しそうな六郎にそのことがバレてしまったのです。言葉につまんでいることから、少年の焦りや動揺の気持ちを読みとりましょう。ですから、答えはアです。イ「礼儀正しくふるまおうともくろんで」の部分が不適切です。ウ「六郎がひどくおこっている」、エ「チャンスがきたとはりきって」はここから読み取れません。

問三 B1 具体化 関係づけ

少年のセリフに注目して、お願い・少年の希望があらわれている部分をぬき出していきます。「あなたの仕事を近くで見させてもらえませんか」「どんな仕事か見てみたいんです」「鍛冶屋さんになりたいと思います」です。ここから答えを作りましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問四 B1 具体化 比較

——線②の二行後の段落に、「鍛冶屋に近所の母親も子供を近づけないようにしていたし、夏、冬かまわず上半身裸で仕事をしている仕事を女、子供が避けるのは当り前のことだった」とあるように、本来、子供と鍛冶屋は関わりを持つことはありませんし、独身の六郎にとって、子供は縁遠いものでした。だから、お願いがあると言われて面くらったのでしょう。ですから、答えはエです。この時、まだ少年の真意はわかりませんが「興味本位で」、ウ「興味を持つてくれた」などの部分が不適切だとわかりますし、六郎の具体的な気持ちであるア「不愉快に思う」、イ「不気味に思う」ウ「うれしく思う」などは明示されていません。またイ「なれなれしく」の部分は本文からは読み取れません。

問五 B1 具体化 比較

——線⑤を含む一文をよく読みましょう。「六郎は自分の意志とは別に少年に対する話し方がぶつきら棒になるのを感じ

ていた」とあります。ここから、六郎は少年に対し、いらだちのような、マイナスの感情を持っているわけではないことが読み取れます。よってウ「いらだち、こらしめたい」は不適切です。エ「からかいたい」も本文からは読み取れません。また、この後も少年に仕事に対する理解度を確認したりしていないので、ア「鍛冶という仕事に対する少年の理解度を確かめたい」、という意志は六郎にはないと考えられません。

問六

B1 具体化 比較

——線⑥の直後に「今、何と言った」と問うていることから、あまりにも意外なことがおこつてとても驚いていることがわかります。2ページの下段にもあるように鍛冶場には、「トヨ」と、仕事先の人間が品物の仕上がりの確認にくるだけですが、まして子供などは近寄りもしません。だから、少年の「鍛冶屋さんになりたい」という言葉に、何を言っているんだと驚いたのでしょうか。ア「しみじみ感動」、イ「真意をわかりかねて」とありますが、そこまでのことをじっくり考える余裕があったとは考えられません。ウ「少年が：堂々と語つたことに驚き、嬉しく」というような深い関係にはなっていない。

問七

B1 関係づけ

⑦の直前に「定められた温度でしか鋼は六郎の言うことをきかない」とあることに注目しましょう。⑦を含む一文にある「鍛冶」とは、六郎のことです。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解と

します。

問八

B1 具体化 関係づけ

「トヨ」は「丁寧に挨拶する少年を見て」おどろいています。⑦の三行後で、六郎は少年の挨拶を見て「感心な子だ」と思っています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九

B1 具体化 比較

——線⑨の直前の段落の内容をよく読みましょう。そこには、六郎が「少年が鍛冶屋になりたいと言いだしたのは少年期によくある気まぐれ：学校に通いはじめれば浩太は鍛冶屋のことも自分のことも忘れてしまおう」と考えていることが示されています。六郎が少年に仕事をさせてやったり、ごちそうしたりしているのは、鍛冶の自分をしてやったり、ごちそうの情のようなものとわかります。鍛冶屋の仕事を「つまらん」と表現しているのは、これ以上互いに思い入れを強めるのはよくない、という気持ちもあつたのかもしれない。ア「少年に、鍛冶屋の仕事を真剣に伝授していこうと思つている」、イ「少年が見学に来るのをやめさせたい」、エ「鍛冶屋のような仕事ではなく別の仕事につくように勧めたい」などの部分が本文からは読み取れません。

問十

B2 具体化 推論

——線⑩の直前の少年のセリフ「親方の仕事は素晴らしい」「面白いのではなく、立派な仕事です」と言っていることから

ら、少年が鍛冶屋の仕事を高度な技術職で、立派な仕事だと考えていることがわかります。また、「まぶしそう」という表現から、少年の六郎への尊敬の気持ちを読みとりましょう。記述のポイントには、①鍛冶屋という仕事は立派だということと、②少年の六郎への尊敬の気持ちがおさえられているかどうかです。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします

問十一 B1 関係つけ 比較

脱文挿入問題は、そこできか出てこない特徴的な言葉に注目できていたか、ということもポイントになります。ここでは、少年が言う「親方」です。本文中では傍点までつけられて強調されていました。【イ】の直前にも「親方」という言葉が出てきますが、これは六郎がつかつていいる言葉です。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 齋藤孝『教育力』（岩波書店）から出題しました。前半では、主に「向上心の技法」について書かれています。教育の主たる目的は、カリキュラムに沿って勉強していくことで、知識とともに向上心を技法していくことだ、とまとめています。後半では、勉強する上で、素直であることが基本であることが示され、勉強することで、知識を得られるだけでなく、「頭が良くな」り、自制心という、メンタルコントロールの技術も身に付けられる、ということが書かれています。難しい言葉も前後でやさしく言い換えてくれています。本文中にキーワードがいくつか出てきますが、具体的に言うとそのらはどういうことなのか、をしつかり読みとりましょう。

問一 B1 具体化 関係つけ

二段落目は「技というのは…」で始まり、「向上心の技法」とはどういうことなのか、説明しています。そこには、「したがって、向上心を技にできているということは、自分の中の向上心を沸き立たせようと思うときに、いつでもそれができるといふことだ」とあります。この部分からは字数に合わせるため出せませんから、これと同意の表現を探します。すると、同じ二段落に「『これをやってみよう』と思ったときに、向上心をしつかり沸き立たせることが自然にできる」という部分があることに気づきます。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 B1 関係つけ 比較

2 がある段落の内容は、「『これをやってみよう』と思

ったときに、向上心をしつかり沸き立たせること」の具体例です。段落の頭の接続詞を考えると、前後の段落の関係を読みとるようにしましょう。

問三 B1 具体化 比較

「知的向上心を磨く」とは、勉強を通して、もつと知りたい、もつと深く学びたい、そして向上していく自分でいたいと思えるような体験を積み重ね、そういう気持ちを高めていくことでしょう。ですから、答えはウです。ア「良い職業につけるといことが動機」とは本文中にありませんし、「知的向上心」とは「もつと勉強しなければ」という気持ちではありません。イ「知的向上心」が「勉強しなければ生まれません」とは本文中に示されていませんし、「磨く砥石」という比喩の部分が無視されています。エ本文中では「知識を詰め込むだけの勉強」について触れられていません。

問四 B1 具体化 比較

線④を含む部分を読むと、「学歴無視こそが：人の個性を端的に見ることにつながる」とあります。学歴無視こそが、人の個性を正しくずばりと見ることにつながる、というぐらゐの意味でしょう。ここで「端的」は、余計な文言を省き、要点を簡潔に表すさま、という意味で使われています。文脈から、この「端的に見る」はマイナスの意味でつかわれていないので、アは不適切です。ウ「長所」の部分が本文中から読み取れません。エ「端的」という言葉に「ありのまま」というような意味はありません。

問五 B1 具体化 関係づけ

本文中で使われている「頭」がどういう意味なのか説明されているのは、後半の最後から二段落目の段落です。そこには、「『頭』と私たちが思っているものは：おもに文脈をつける力を指していることが多い。その文脈をつけて理解する力というのは、やればやるほど伸びていくものなのだ」とあります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六 B1 理由 比較

線⑥について、その直後の段落で「考えてみれば当たり前のことにすぎない」と受け、線⑥が言える理由が説明されていることに気づきましょう。そこには、「勉強する」ということの基本は：耳を傾けて我慢して聴くという心の構えが求められる：自己中心的・独善的な態度を一度捨てる必要がある」とあります。勉強を通して、そういう心の構えをくり返すうちに「自制心」が身に付いていくということです。ですから、答えはエです。アここでは勉強と遊びを対極においていません。「遊びたい気持ちをおさえて」の部分が不適切です。イ「将来の安定に：心に余裕が生まれ」、ウ「勉強する上で必要な、何としても理解しようという強い意志」というような表現は本文中にありません。

問七 B1 置換 関係づけ

「耳を傾けて聴く」という心の構えについては、この段落を含む六段落にわたって説明されています。「構え」につな

がる言葉を探しましょう。そこには、「積極的に受動的な構え」がありますが字数にあいしません。読み進めると——線⑩の次の段落が、「そういうわけで、勉強をすると素直に吸収する構えが技となる」で始まっています。「そういうわけで」とあることからわかるように、この段落の文頭で、「耳を傾けて聴くという心の構え」について説明してきたここまで、のまとめをしているのです。「素直に吸収する構え」は「人の言っていることに耳を傾けるといふ素直な態度」と同意の表現です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八

A2 知識 比較

——線⑧の直後に、「つまり心をすっきりさせて」とあることに注目です。エ「批判する」とありますが、「まずは相手の言っていることを受け入れ」ることが大切だとあります。

問九

B1 具体化 比較

本文では、勉強するうえで大事なものは、「まずは相手の言っていることを受け入れ」ることだということが説明されている、ということを確認しましょう。そして、——線⑨の直後に示されているのは——線⑨の具体例です。そこには「モーツァルトが音楽の技法・文法を修得して表現したように」とあります。過去の知識や技を修得した人が、それらを使って自分なりの表現をする、ということです。ア知識だけにしか触れられていません。また、「何が新しい表現かわからないで」の部分も理由として不十分です。イ「過去の知識や技

を修得」という大事な部分がぬけている選択肢です。エ「素直な気持ちがない」との部分「過去の知識や技を修得して」の部分と意味がずれています。

問十

B1 理由 比較

「なぜ」とあるので、この文の根拠、理由となる部分を探します。——線⑩の直前の文は「だから勉強すれば…」とあり、この文の前に理由があることがわかります。そこには、「基本的には学ぶという活動は『素直さ』を育てるものである」とあります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十一

B2 抽象化 比較

内容正誤の問題は、選択肢を一つ一つ丁寧に読むことが大切です。イ「全く無意味」の部分が誤りです。ウ「人の上に立ちたいという向上心」の部分が誤りです。エ「勉強のしすぎで」というような話は本文中には出てきません。

3

A1 知識

文脈を考えて、慣用句やことわざを完成させましょう。知らなかった言葉、自分で例文を作ることができない言葉については、辞書などで確認してください。

①「すぐ食べて」と言っていることから、食べ物腐りやすい・長持ちしないという意味の「足が早い」が当てはまります。選択肢の言葉はそれぞれ、ア「肩を持つ」|| 味方をする、イ「腕をふるう」|| 能力や技量を十分に発揮する、

ウ「あわせる顔がない」|| 申し訳(わけ)がたたない、エ「足が棒になる」|| あちこち歩きまわつてくたびれる、です。

②「お世話になった」とあるので、相手に引け目(ひけめ)があつて対等な関係にたてないという意味の「頭(かぶ)があがらない」があてはまります。選択肢の言葉はそれぞれ、ア「顔(かほ)がきく」|| 権力(けんりき)を持つていて、その人が出ることで無理(むり)がとれる、イ「頭(かぶ)を冷(ひや)やす」|| 冷静(れいじやう)になつて考える、ウ「手(て)をそめる」|| 手(て)をつける、事業(じやぎやう)などに関係(かんけい)する、エ「気(き)が重い」|| 何かをするのに気(き)が進(すす)まない、です。

③「自分で考えて行動(こうどう)しろ」という言葉(ことば)があることから、ここにあてはまるのは、他人(たにん)の言動(ごんどう)にわけもわからず付き従(よぶ)うという意味の「しり馬(うま)に乗(の)る」だとわかります。選択肢の言葉はそれぞれ、ア「首(くび)をつっこむ」|| 興味(くわい)本位(ほんゐ)でそのことに関係(かんけい)する、イ「凶(よこしま)に乗(の)る」|| いい気(き)になつて勢(いき)づく、ウ「手(て)をぬく」|| いい加減(かへん)にする、エ(顔(かほ)に)泥(どろ)をぬる」|| 恥(はじ)をかかせる、です。

④文脈(ぶんまく)から感動(かんとく)させた、ということでしょうから、ここには「心(こころ)をうつ」が入(い)ります。選択肢(せんたくし)の言葉(ことば)はそれぞれ、ア「手(て)を焼(や)く」|| 処理(しゆり)や対策(たいさく)の仕方(しかた)がわからず困(こま)る、イ「名(な)を残(のこ)す」|| 後世(こうせい)まで名聲(めいせい)が伝(つた)えられる、ウ「終(おしま)止(と)符(ふ)をうつ」|| 決着(けつちやう)をつける、エ「歯(は)が立た(た)ない」|| 自(みづか)己(ぢ)の力(ちから)ではどうにも対応(たいおう)できない、です。

⑤わけがわからずぼんやりすることを「きつねにつままれる」といいます。選択肢(せんたくし)の言葉(ことば)はそれぞれ、ア「虎(とら)の威(い)を借(か)る狐(きつね)」|| 自(みづか)己(ぢ)には力(ちから)がないのに、強(きやう)い人(ひと)の力(ちから)をたより、そのかげにかくれていばること、イ「借(か)りてきた猫(ねこ)」|| ほかの家(いえ)から借(か)りてきた猫(ねこ)のように、いつもとちがつてとてもお

となしいこと、ウ「鶴(つる)の一声(いっせい)」|| 多くの人の意見(いけん)や議論(ぎろん)をおさえつける、権威(けんい)ある人のひとことのこと、エ「猿(さる)も木(き)から落ち(お)ちる」|| どんな名人(めいじん)でも失敗(しぱい)することがあるということのたとえ、です。

4 **A2** **知識** **比較**

述語(じよご)による文(ぶん)の分類(ぶんれい)の問題(もんだい)です。アは「何がナンダ」、イは「何がドンナダ」、ウは「何がドウスル」の形の文(ぶん)です。述語(じよご)を言いきりの形(かたち)に直(ただ)した時(とき)、「名詞(めいし)十だ」か、「形容詞(けいようし)十だ・形容動詞(けいようどうし)」か、「動詞(どうし)」かを見極(みきよく)めましょう。

①「したいのだ」の言いきりの形(かたち)は「する」です。

②「人材(じんざい)だ」は言い切り(いぎり)の形(かたち)になつています。「名詞(めいし)十だ」です。

③「細(こま)めた」の言いきりの形(かたち)は「細(こま)める」です。

④この「平和(へいわ)だ」には注意(ちゆうい)が必要です。「世界(せかい)が求(もと)めているの(こと)は：平和(へいわ)だ」という文(ぶん)ですから、これは形容詞(けいようし)動詞(どうし)の「平和(へいわ)だ」ではなく、「名詞(めいし)十だ」の「平和(へいわ)十だ」です。ですから、答え(こたえ)はアです。

⑤「静(しず)かです」の言い切り(いぎり)の形(かたち)は「静(しず)かだ」です。「静(しず)かな」と活用(かっくわ)させることができるので、これは形容動詞(けいようどうし)です。